

持続的な地場産業の育成事業

－No.51 ときがわ町－

【事業の内容】

ときがわ町まち・ひと・しごと創生総合戦略では、「オリジナリティのある産業、安定した雇用のあるまち」を重要施策と位置付け、全国でも有数の産地であった木工建具産業を支えた林業の復興を目指します。事業の展開に当たり、町内を川上、川中、川下の3地域と捉え、そこに所在する関連産業の役割を明確にし、連携しながらときがわ町ならではの地域林業システムを構築します。

- 川上地域（林業従事者の育成）
 - ・ 緑の雇用指導者育成事業（緑の雇用創出事業修了者対象）
 - ・ 若年層からセミリタイア世代まで対象とした緑の雇用創出事業
 - ・ 林業施業低コスト化推進事業（高性能林業機械導入）
 - ・ 木質バイオマス燃料供給システム試行事業
- 川中地域（製材業者の支援、中山間地域の移住定住支援）
 - ・ 均質な性能の製品供給基盤整備事業（機械等級区分製材測定器導入）
 - ・ 川上と川下をつなぐ「とき森なりわい塾」事業（移住定住増加支援）
- 川下地域（木材関連産業の振興、木育の推進）
 - ・ ときがわ方式拡販プロジェクト事業（地域産木材販売拡大）
 - ・ 森林資源を背景とした起業支援事業（移住定住増加支援）
 - ・ ウッドスタート事業（木製誕生祝品贈呈による木育推進）
 - ・ 子育て木育サロン整備事業（内装木質化による木育空間の整備）
 - ・ 川上から川下まで一貫した地域産木材 PR

【事業年度】

平成 28 年度～平成 31 年度

【予算額(千円)】

44,490千円

【財源】

地方創生加速化交付金（国）

【事業実施に至った背景・経緯】

本町では、平成 12 年度から全国に先駆けて学校の内装木質化を行い、RC 造の学校施設の環境改善に取り組んできました。同時に庁舎や観光施設などの公共施設整備にも地域産の木材を積極的に活用し、本町における内装木質化を伴う施設改修の手法は、「ときがわ方式」として全国的に認知されています。

しかしながら、本町で 80 年代後半から 90 年代前半にかけて隆盛を誇った木工建具を主軸とする木材関連産業は、現状維持もしくは縮小傾向にあります。用いられる資材も輸入された木材に頼るところが非常に大きく、今まさに利用期を迎えている町内の人工林の森林資源と、町内に所在する木工業者において地域産木材が利用されない産業構造は大きな課題と言えます。

【事業のPRポイント】

- 本事業は、ときがわ町木材利用検討委員会の林業事業体、素材生産者、素材加工者、建築業者、設計業者などの構成メンバーによって、川上から川下までの木材関連事業の実業に沿った知識の提供や、専門分野の知見を生かしながら取り組みます。
- 林業従事者は、若年層からセミリタイア層まで幅広く確保するとともに、都市部から I ターン U ターンを募るための移住定住イベントを実施します。

【事業実績・成果・今後の展開】

- 町内における小中学校校舎内装木質化
平成 12 年度～平成 25 年度 RC 造校舎及び体育館の大規模改修
平成 23 年度 町有施設の木造化、木質化に関する指針 策定
平成 27 年度 ウッドスタート宣言
- 緑の雇用創出事業（各 3 か年）

第一期（平成 17～19 年度）修了者	3 名
第二期（平成 21～23 年度）修了者	1 名
第三期（平成 24～26 年度）修了者	2 名

〔 連絡先 〕

産業観光課木材利用推進担当 0493（65）1532（直通）